

西山 健治さん
Kenji Nishiyamaニシヤマ ケンジ/移動スーパー
とくし丸、甲佐町担当ドライ
バー。拠点はマルエイ甲佐店。

〔移動スーパーとくし丸〕

品々を載せ、あなたの元へ とくし丸は今日もまちを走る

「あなが来るとは待ってよ」。行く先々で歓迎を受ける移動販売車とくし丸。いまや、買い物に行くことが困難な方にとって欠かせない存在だ。買い物客の表情から

は、3年間誠実に顧客と向き合い、良好な関係を築いてきたことがうかがえる。3周年を迎えた心境をドライバーの西山さんに聞いた。

「3つは、ドライバーになって3年なんです。出会ったお客様が良い方ばかりで有り難く思っています。毎日違う事が起るのも、この仕事の楽しい所です」と笑顔で返ってきた。

月曜から土曜までの週6日、曜日ごとに決まったルートを回る。リクエストを受けた品や客の好みに合わせた品など約400品目をトラック

いっぱい積み込み、一日中車を走りさせる。最近では、商品を積み込むとき、「あのお客はコリ好きかな？」など想像しながら楽しんで作業している。

出発準備を始める朝7時ごろから翌日の準備を終える夕方まで忙しく働く西山さんに、そのパワーの源を尋ねてみた。すると「休日である日曜日に愛犬ルルと一緒に出かけるのが楽しみです。トイプードルにしては活発に走るのので、体力作りを兼ねて朝晩の散歩で1〜2kmを一緒に走っています」とのこと。

日曜日に雨が降ると、ルルと出かけられないことを残念に思いつつも販売が休みの日に雨が降って良かったと思うそう。休日も移動販売のことが、頭から離れないようだ。

この3年間に買い物客が突然体調を崩し、倒れそうになったところを受け止めたこともあるという。高齢者の利用が多いため、段差などでつまずくことがないよう、お客さんの様子に注意を払い、重い荷物は玄関まで運ぶようにし

ている。

「とくし丸は、一軒一軒、玄関先で買い物ができるのがモットー。『少ししか要らないから来てもらったら申し訳ない』などと考えず、気軽に呼んでほしいと思っています。とくし丸をまだ、利用したことがない人も見かけたら気軽に商品を見に来てくださ」と未利用者呼びかけ。

幼少のころ、祖母と移動販売の鮮魚屋さんに行くのが楽しみだったという西山さん。その思い出が忘れられず、いつか自分もやってみたいと思っていたそう。販売車のドライバーになるという夢をかなえた今、「こんなに多くの方から感謝してもらえる職業ってほかにないと思います。本当にこちらこそありがとうございます」といいます。最後まで謙虚だった。

とくし丸には、その名に社会や公共の福祉に貢献する「篤志」の意味が込められているという。

人々が待つ品々と西山さんの志を載せて、とくし丸は、今日もまちを走る。